

2014年11月28日 全4頁

Indicators Update

10月雇用統計

ヘッドラインほどには内容は良くない

エコノミック・インテリジェンス・チーム
永井 寛之
エコノミスト 橋本 政彦

[要約]

- 労働力調査によると、2014年10月の完全失業率(季節調整値)は、前月から▲0.1%pt低下し、3.5%となった。ヘッドラインだけ見れば前月より失業率が改善しているが、内容はそこまで良くない。雇用者数は、前月差▲20万人と大幅に減少し、自営業主・家族従業者を含めた就業者数を見ても、同▲11万人と3ヶ月ぶりの減少となった。これまで増加が続いてきた雇用者数・就業者数は、増勢が鈍化している。
- 一般職業紹介状況によると、2014年10月の有効求人倍率(季節調整値)は前月から0.01pt上昇し、1.10倍となった。また、新規求人倍率は前月から+0.02pt上昇し1.69倍となった。
- 10月の雇用関連統計を総じて見ると、失業率、有効求人倍率ともに前月から改善しており、労働需給は引き続きタイトな状況が続いている。ただし、雇用環境の改善ペースは鈍化している。

雇用関連指標の推移

		2014年					
		5月	6月	7月	8月	9月	10月
労働力調査							
完全失業率(季節調整値)	%	3.5	3.7	3.8	3.5	3.6	3.5
一般職業紹介状況							
有効求人倍率(季節調整値)	倍	1.09	1.1	1.1	1.1	1.09	1.10
新規求人倍率(季節調整値)	倍	1.64	1.67	1.66	1.62	1.67	1.69
毎月勤労統計							
現金給与総額	前年比、%	0.6	1.0	2.4	0.9	0.7	
所定内給与	前年比、%	0.0	0.2	0.3	0.2	0.4	

(出所) 総務省、厚生労働省統計より大和総研作成

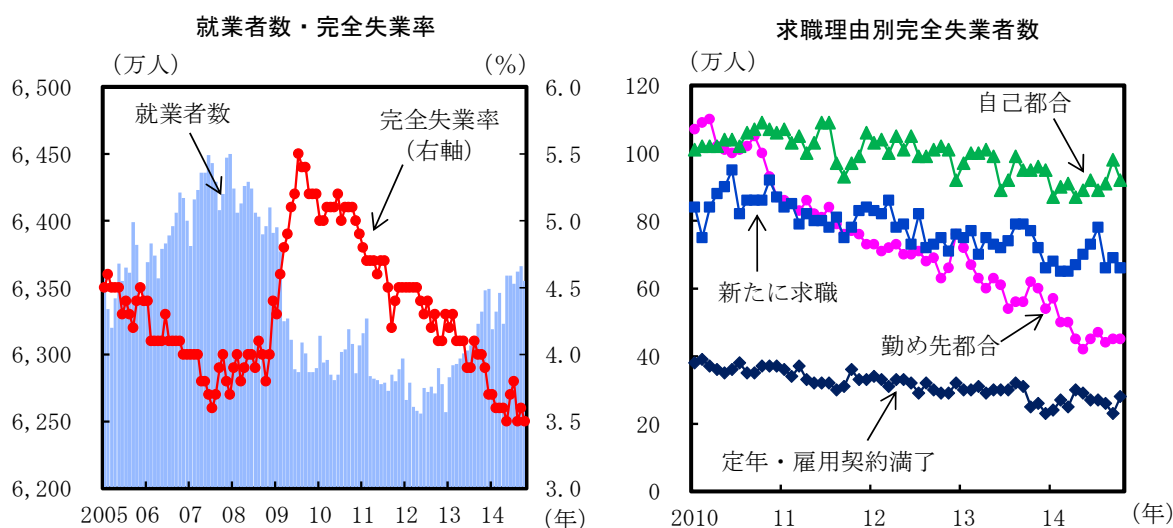
2014年10月完全失業率：3.5%と前月から▲0.1%pt 低下

労働力調査によると、2014年10月の完全失業率(季節調整値)は、前月から▲0.1%pt 低下し、3.5%となった。ヘッドラインだけ見れば前月より失業率が改善しているが、内容はさほど良くない。雇用者数は、前月差▲20万人と大幅に減少し、自営業主・家族従業者を含めた就業者数を見ても、同▲11万人と3ヶ月ぶりの減少となった。これまで増加傾向が続いてきた雇用者数・就業者数は、増勢が鈍化している。失業者数は同▲3万人と2ヶ月ぶりの減少となったが、これは就業者数が減少する中、非労働力人口が同+12万人と大きく増加したためである。

失業者数を求職理由別に見ると、「自発的な離職」による失業者数が前月差▲6万人となり、3ヶ月ぶりに減少したことが失業者数減少の主な要因となった。また、「新たに求職」による失業者数が同▲3万人と2ヶ月ぶりに減少した。一方、「勤め先や事業の都合」による失業者数が前月から横ばいだったものの、「定年又は雇用契約の満了」による失業者数が同+5万人となったことから企業側に起因する「非自発的な離職」による失業者は3ヶ月ぶりに増加した。

産業別に就業者(原数値)の動向を見ると、「生活関連サービス業、娯楽業」(前年差▲16万人)が4ヶ月連続で前年を下回ったほか、「宿泊業、飲食関連サービス業」(同▲9万人)、「卸売業、小売業」(同▲3万人)が2ヶ月ぶりの前年割れとなっており、個人関連業種が低調であった。また、「製造業」(同▲13万人)も2ヶ月連続で減少し、減少幅は前月から拡大した。一方、就業者数の増加傾向が続く「医療、福祉」は同+22万人、「建設業」は同+14万人となり、いずれも増加幅が前月から拡大した。

就業者数・完全失業率、求職理由別完全失業者数



(注) 季節調整値。

(出所) 総務省統計より大和総研作成

2014年10月有効求人倍率：4ヶ月ぶりの上昇

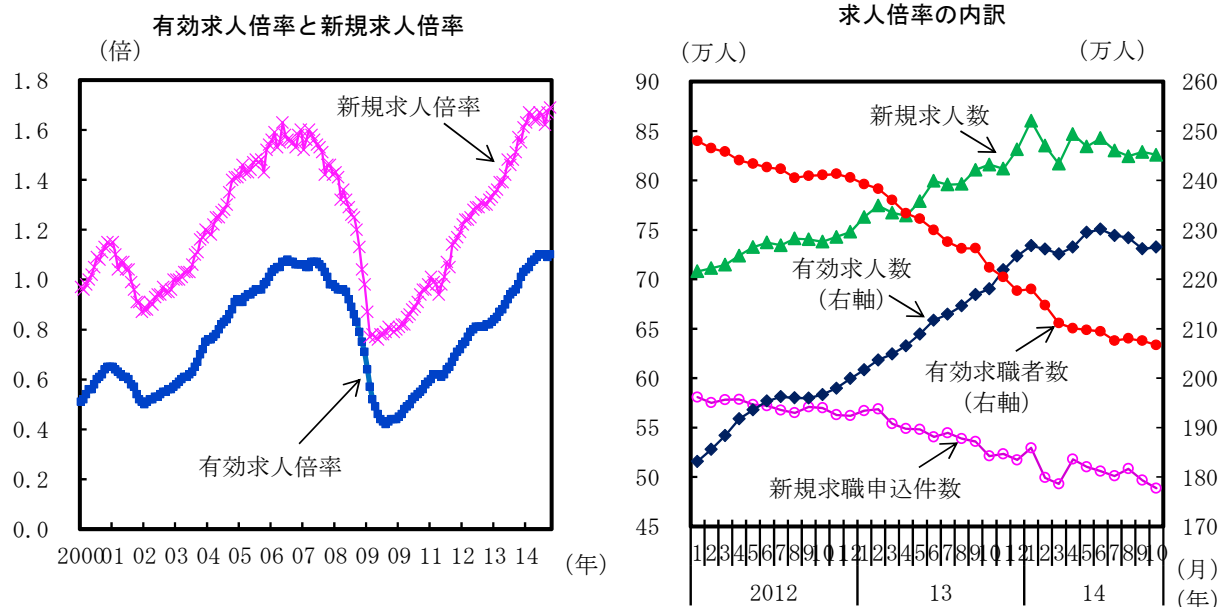
一般職業紹介状況によると、2014年10月の有効求人倍率(季節調整値)は前月から0.01pt上昇し、1.10倍となった。また、新規求人倍率は前月から0.02pt上昇し1.69倍となった。

10月の求人倍率の内訳を見ると、新規求職申込件数、有効求職者数ともに2ヶ月連続の減少となった。このところ減少ペースは鈍化しているものの、求職者(≒失業者)の減少傾向は続いている。他方、求人側を見ると、新規求人数は2ヶ月ぶりの減少となった。有効求人数は4ヶ月ぶりの増加となったものの、求人は均してみれば横ばい圏での推移が続いている。再就職が進むことで求職者数の減少傾向が続いているため、有効求人倍率、新規求人倍率は高水準での推移が続き、労働需給は引き締まった状況が続いている。しかし、企業による求人はこのところ頭打ちとなっており、雇用環境の改善ペースは鈍化している。

雇用環境の改善ペースは鈍化傾向にあるが、労働需給はひっ迫した状況が続く

10月の雇用関連統計を総じて見ると、労働需給は引き続きタイトな状況が続いているものの、雇用環境の改善ペースは鈍化している。ただし、先行きについては、景気が緩やかに拡大する中、求人が増加し、雇用環境の改善が続くとみられる。完全雇用に近づきつつあるため、就業者数の増加や失業者数の減少ペースは鈍くなるとみられるものの、失業率や有効求人倍率に見る労働需給はひっ迫した状況が続くと見込まれる。

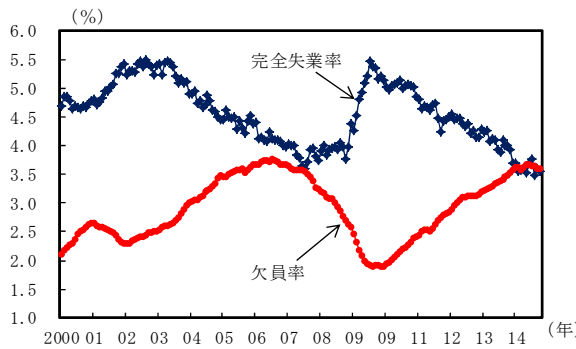
有効求人倍率と新規求人倍率、求人倍率の内訳



(出所)厚生労働省統計より大和総研作成

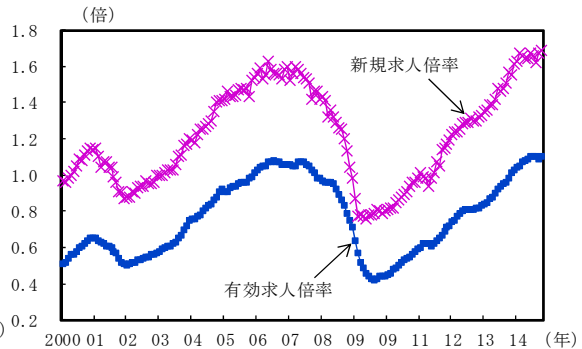
雇用・所得概況

完全失業率と欠員率



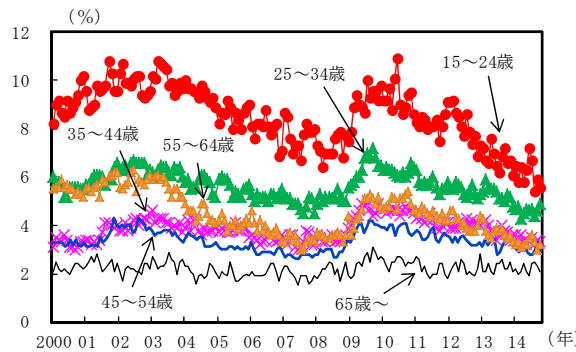
(注1) 欠員率=(有効求人人数-就職件数)/(雇用者数+有効求人人数-就職件数)
 (注2) 2011年3月～8月は補完推計値。
 (出所) 総務省統計、厚生労働省統計より大和総研作成

有効求人倍率と新規求人倍率



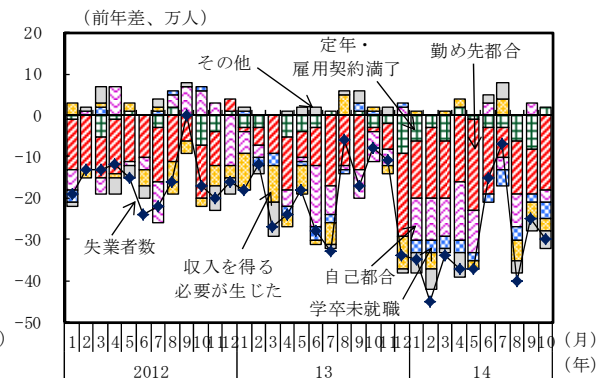
(出所) 厚生労働省統計より大和総研作成

世代別完全失業率



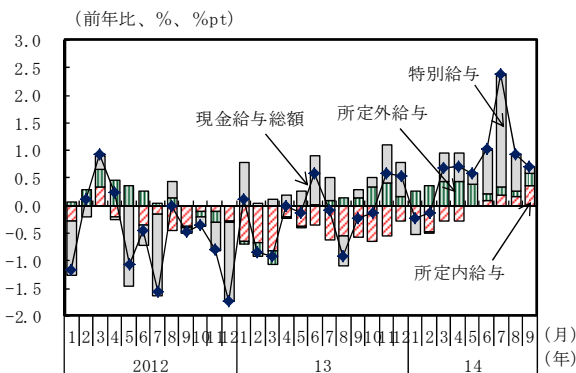
(注) 2011年3月～8月は補完推計値。
 (出所) 総務省統計より大和総研作成

求職理由別失業者数



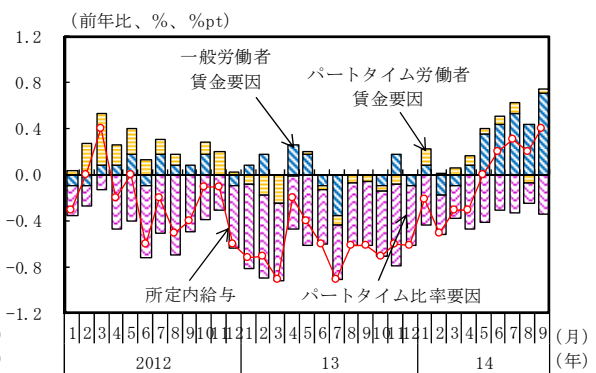
(注1) 2011年3月～8月は補完推計値。
 (注2) 2011年以前は平成17年国勢調査を基準とする推計人口を基準としており、2012年1月以降の数値とは必ずしも比較可能ではない。
 (出所) 総務省統計より大和総研作成

現金給与総額の要因分解



(出所) 厚生労働省統計より大和総研作成

所定内給与の要因分解



(出所) 厚生労働省統計より大和総研作成